

開催地名	沖縄県 読谷村
開催日時	令和6年11月27日(水)19:00~20:30
開催場所	読谷村文化センター中ホール
語り部	松井 憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	読谷村民 40名(読谷村役場職員、地域住民、民生委員等)
開催経緯	本村ではこれまで24自治会中8自治会が自主防災会を設立している。毎年各自主防災会で防災訓練を行っているが、マンネリ化してきており参加人数がだんだん減ってきている現状がある。そこで実際の被災体験を踏まえつつ、研修に近い形の講演で防災力の向上及び防災意識の高揚を目的として開催した。
内容	<p>■はじめに</p> <p>本講演では、2014年の広島豪雨災害を経験した語り部による体験談を通じて、防災意識を高めることの重要性について考える機会を提供した。読谷村長の石嶺傳實氏による開会の挨拶の後、広島市豪雨伝承館の副館長を務める講演者が登壇し、被災当時の状況や自主防災の取り組みについて語った。</p> <p>講演者は、広島市地域防災リーダーや広島県自主防災アドバイザーとしても活動し、防災教育や語り部活動を通じて、地域住民への啓発を続けている。災害の教訓を伝えることで、防災意識を高め、地域全体での防災力を向上させることを目指している。</p> <p>■被災当時の状況</p> <p>2014年8月、広島市では集中豪雨による甚大な土砂災害が発生した。深夜に雷鳴が轟き、1時間あたり100ミリという記録的な豪雨が降り続いた。家の屋根や壁を激しく打ち付ける雨音が約2時間半にわたって響き渡り、住民は次第に不安を募らせていった。</p> <p>翌朝、周囲が異様に静かであることに気づき、外の状況を確認すると、普段の生活音が一切聞こえず、異臭が漂っていた。周囲の家屋や道路が土砂に覆われており、甚大な被害が発生していることが明らかとなった。</p> <p>救助ヘリが到着したものの、捜索活動は難航し、多くの住民が孤立した状態に置かれた。講演者自身も、自宅から避難しようとした際、膝下まで土砂に埋まり、敷地外に出るまでに15分もの時間を要したという。こうした体験から、災害時における避難の難しさを改めて痛感したと述べた。</p> <p>■防災意識を高めるための取り組み</p> <p>近年、避難警報が発令されても避難行動を取る住民が減少しており、防災意識の低下が課題となっている。防災意識を向上させるためには、以下のような取り組みが有効である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日常的な情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ○気象情報や災害リスクを把握し、普段から防災について考える習慣を身につける。 ○ハザードマップを確認し、自宅や職場周辺の危険箇所を把握する。 2.防災リーダーへの支援強化 <ul style="list-style-type: none"> ○行政が地域の防災リーダーを積極的に支援し、住民への防災情報の発信を強化する。 ○他地域の防災リーダーを招いて講演を実施し、異なる視点からの防災対策を学ぶ機会を提供する。 3.近接地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時に、被災地域だけで対応するのは難しいため、近隣の地域と連携し、支援体制を構築しておくことが重要である。 <p>■避難訓練と防災学習会の工夫</p> <p>避難訓練や防災学習会を実施する際には、住民が主体的に参加できるような工夫が必要である。以下のような方法が有効である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.避難訓練の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○訓練後に消防車の展示や降雨・地震体験、防災グッズの販売、キッチンカーの出店などを組み合わせることで、多くの住民が関心を持ちやすくする。 ○子どもや高齢者も参加しやすい内容にすることで、地域全体の防災意識を高める。

	<p>2.学習会の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一方的な講義形式ではなく、参加者が主体的に学べる対話型・質問型の学習会を取り入れる。 ○災害の事例をもとに、「自分がその場にいたらどう行動すべきか」を考えるワークショップを実施する。 <p>■まとめ</p> <p>本講演では、2014年の広島豪雨災害の体験をもとに、地域防災の重要性が語られた。災害は予測が難しく、いつ発生するかわからないため、日頃からの備えが不可欠である。防災意識を高めるためには、避難訓練や学習会を工夫し、住民が主体的に取り組める環境を整えることが重要である。また、防災リーダーへの支援や近隣地域との連携を強化することで、より効果的な防災対策を実現できる。</p> <p>最後に講演者は、「防災は、日常生活の一部として意識することが大切だ」と述べ、今後も防災啓発活動を続けていく決意を語った。</p>
開催地より	 <p>防災意識を高めるには最初から防災訓練(ゴール)を目指すのではなく、勉強会や机上訓練などのステップを増やすことが重要と感じた。行政側としてはその訓練メニューや学習会、研修会、講演会などのコンスタントな刺激を与えられるよう取り組みたい。</p>